

原発事故と食の安全（14）

自民・公明の与党は7月15日、安全保障関連法案（戦争法案）を衆院にて強行採決を行いました。法案の内容を知れば知るほど、違憲性と戦争に与する危険性が、誰の目にも明らかになって来ました。支持政党や意見が違って、圧倒的多数の人々が「今国会の成立反対」「審議が尽くされていない」「憲法違反」の声をあげ、国会周辺や全国津々浦々で抗議の集会やデモが連日のように行われています。

7月2日、京大の教職員、研究者、学生らで立ち上げた「自由と平和のための京大有志の会」の声明文が、話題になりあちこちの集会で読まれています。ここに紹介します。

戦争は、防衛を名目に始まる。

戦争は、兵器産業に富をもたらす。

戦争は、すぐに制御が効かなくなる。

戦争は、始めるよりも終えるほうが難しい。

戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。

戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。

精神は、操作の対象物ではない。

生命は、誰かの持ち駒ではない。

海は、基地に押しつぶされてはならない。

空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。

血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、

知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。

学問は、戦争の武器ではない。

学問は、商売の道具ではない。

学問は、権力の下僕ではない。

生きる場所と考える自由を守り、創るために、私たちはまず、

思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。

東京電力福島第一原発事故から4年4ヶ月が過ぎましたが、いまだ収束は覚束なく、放射性物質は大気にも海にも流出し続け、汚染された食品は様々な形で確実に皆の口に入っています。放射性物質は主としてアレルギー症状を引き起こして外来にお見えになりますが、増えることはあっても、減ることはありません。汚染の強いものを食べての再発も後を絶ちません。今後、3~40年は監視の手を緩めることはできないと思います。食品の放射能汚染を、常にチェックする必要性を考え、京都・市民放射能測定所（伏見、三条御前の2か所）に加えて、同じベラルーシ ATOMTEX 社のヨウ化ナトリウムシンチレーターAT1320Aを測定所代表の奥森様のご紹介で「健らいと」に設置しました。今後食品測定のご要望にお応えしていきたいと思っております。